

1. 地区の概況

**【位置】**  
市の中央北端に位置し、船橋市との市境に接する。南西はJR総武本線を境界とする。

**【地形・地勢】**  
地区内は、なだらかな段丘の中央を帯状に谷底平野が延び、平野は造成され商業・文教施設建設のほか住宅地として整備されている。JR津田沼駅北口及び新京成新津田沼駅周辺(津田沼1丁目)は、船橋市にまたがる再開発事業により大型商業施設が次々と進出し、JR津田沼駅南口地区との回遊性にも配慮しつつ、市の広域拠点として商業・業務・サービス施設が集積した複合型市街地の形成が促進されている。

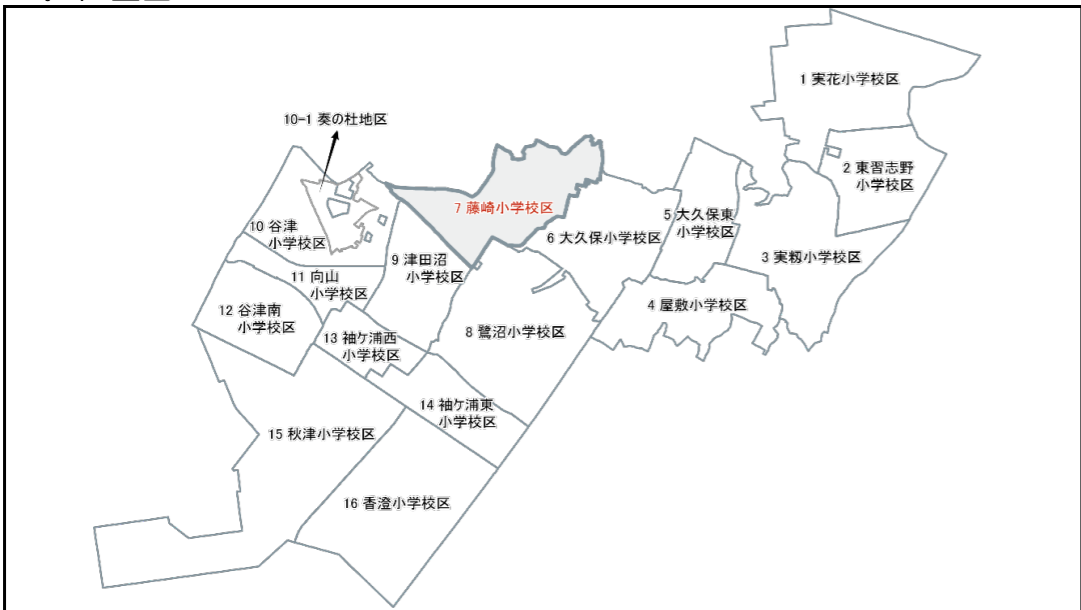
津田沼3丁目、藤崎2丁目には中高層住宅が広がる。段丘上は農地と住宅が混在し、藤崎1・4丁目には森林公園や緑地が保全されている。藤崎小学校及び第五中学校周辺等に急傾斜地が分布する。

**【交通】**  
地区の南西をJR総武本線が走り、新京成線が蛇行しながら南北方向に交差する。船橋市にまたがって、地区内にJR津田沼駅が立地し、新京成新津田沼駅が近接する。それぞれの1日の平均乗降人員はJR津田沼駅79,799人、新京成線新津田沼駅54,218人に上る。藤崎小学校前を東金御成街道(県道69号)が通過する。

**【人口・建物等】**  
人口・世帯数ともに市平均より高い。老年人口の割合は19.5%と市平均より小さく、若年人口の割合が大きい地区である。建物棟数は16地区中4番目に多い。昭和55年以前の建物の割合22.5%は、市平均をやや下回っており、比較的新しい建物が多い地区である。

**【地区内の施設等】**  
藤崎小学校と第五中学校が第一避難所であり、その他に1箇所(計3箇所)が一時避難場所となっている。補助避難所として、藤崎保育所、藤崎幼稚園、ふじさきふれあいセンターが指定されている。地区内に福祉避難所に指定されている施設はない。防災倉庫が避難所に設置されている。この地区に非常用給水施設は存在しない。急傾斜地が多く存在しており、土砂災害特別警戒区域が7箇所、土砂災害警戒区域が7箇所、急傾斜地崩壊危険区域が1箇所指定されている。

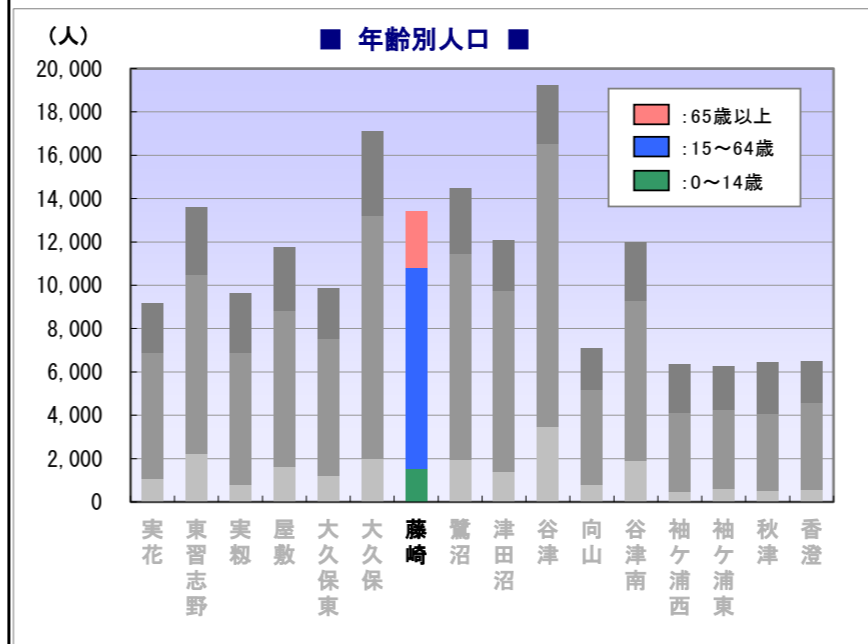
2. 位置図



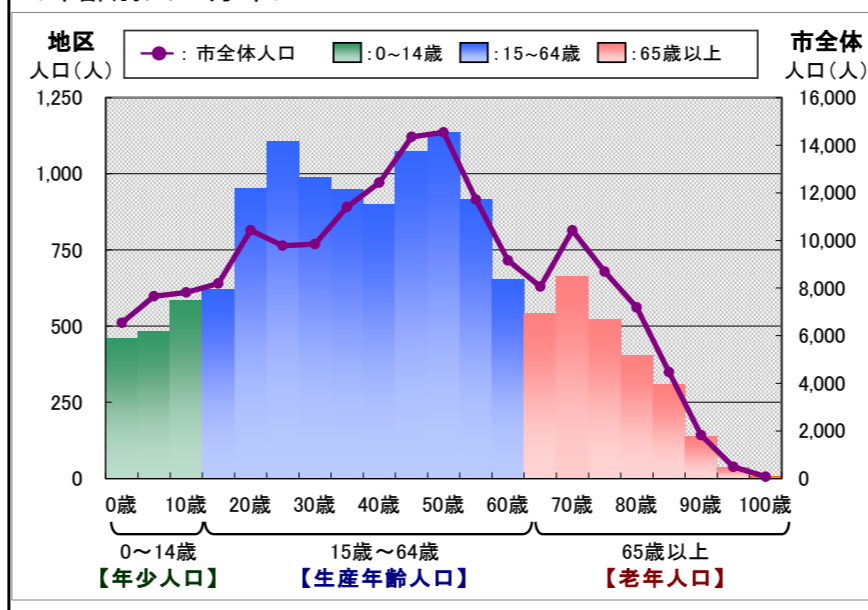
3. 基本指標

	地区内		市全域
人口	13,439 人	7.7%	175,065 人
(内訳)	-	-	-
0歳~14歳	1,524 人	6.9%	21,998 人
15歳~64歳	9,300 人	8.3%	111,846 人
65歳~	2,616 人	6.3%	41,221 人
老年人口割合	19.5 %		23.5 %
世帯数	6,803 世帯	8.2%	83,137 世帯
世帯当り人口	1.98 人	-	2.11 人
地区面積	1.27 km <sup>2</sup>	6.1%	20.96 km <sup>2</sup>
人口密度	10,562 人/km <sup>2</sup>	-	8,351 人/km <sup>2</sup>

<年齢別人口(他地区との比較)>



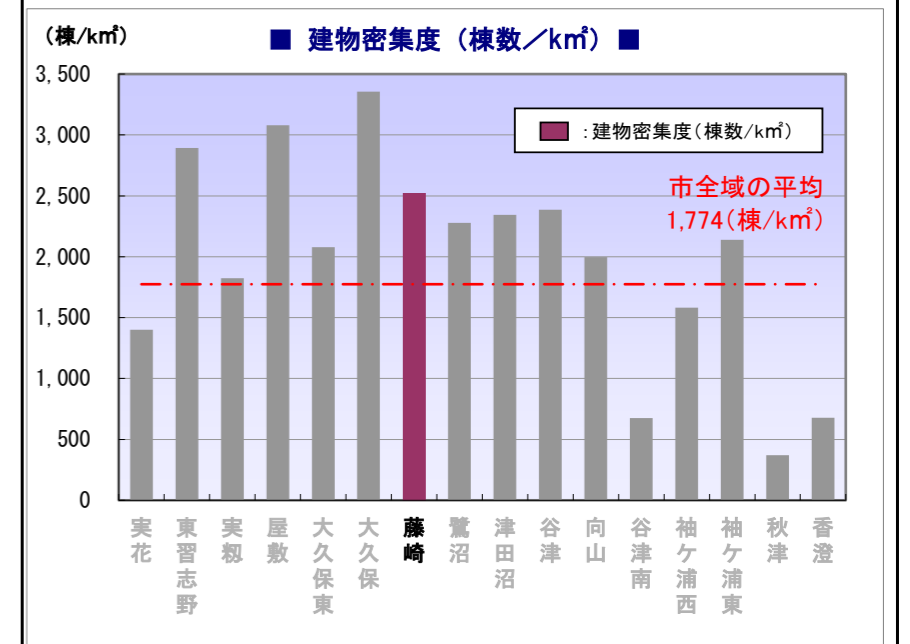
<年齢別人口分布>



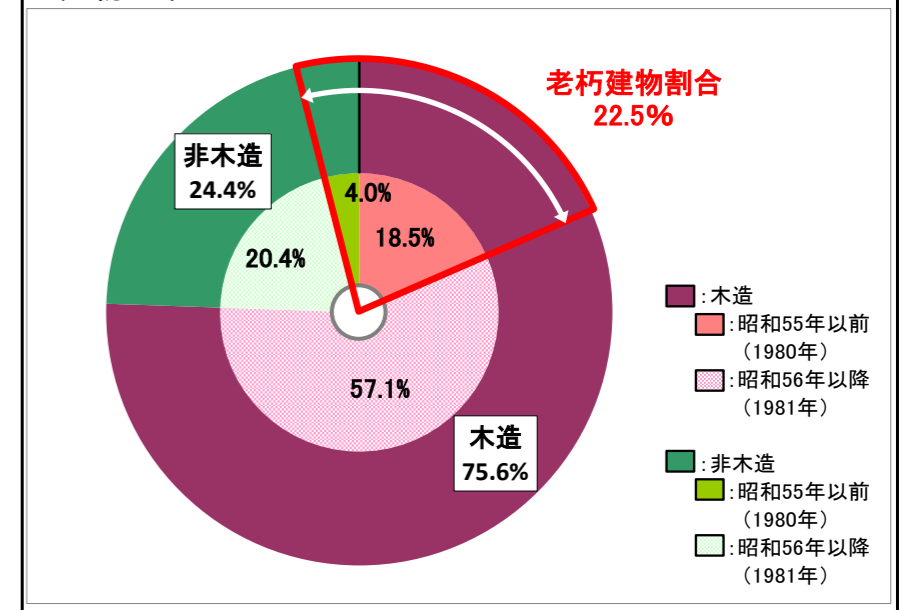
4. 建物指標

	構造	建築年	地区内	市全域
構造・建築年別建物棟数	木造	~昭和55年	592 棟	7,520 棟
		昭和56年~	1,834 棟	19,915 棟
		小計	2,426 棟	27,435 棟
	非木造	~昭和55年	130 棟	1,708 棟
		昭和56年~	655 棟	8,052 棟
		小計	785 棟	9,760 棟
合計			3,211 棟	37,195 棟
建物密集度			2,524 棟/km <sup>2</sup>	1,774 棟/km <sup>2</sup>
老朽建物割合			22.5 %	24.8 %

<建物密集度(他地区との比較)>



<建物比率>



5. 地区対策支部

設置場所	住所	設置予定場所
藤崎小学校	藤崎4丁目12番1号	1階 職員室

6. 避難施設

種類	施設名称	屋外面積 (㎡)	屋外収容人員(人)	屋内面積 (㎡)	屋内収容人員(約人)
一時避難場所 (グラウンド等)	藤崎小学校	20,520㎡	20,520人		
	第五中学校	23,438㎡	23,438人		
	子安神社	3,239㎡	3,239人		
第一避難所 (体育館等)	藤崎小学校			814㎡	490人
	第五中学校			1,621㎡	980人
補助避難所	藤崎保育所			1,243㎡	750人
	藤崎幼稚園			701㎡	420人
	ふじさきふれあいセンター			380㎡	230人
福祉避難所	なし				

※ 一時避難場所は敷地面積すべてを記載しています。

7. 高齢者福祉施設

施設名	施設名
グループホーム津田沼	
そんぽの家津田沼	
お年寄りお世話の家	
デイサービス津田沼	
アミカの郷津田沼	

8. 防災倉庫・非常用給水施設・AED設置場所

種類	施設名	住所
防災倉庫	藤崎小学校	藤崎4丁目12番1号
防災倉庫	第五中学校	藤崎2丁目3番16号
給水施設	なし	
AED設置場所	第五中学校	藤崎2丁目3番16号
AED設置場所	藤崎小学校	藤崎4丁目12番1号
AED設置場所	企業局	藤崎1丁目1号13番
AED設置場所	藤崎保育所	藤崎3丁目2番19号
AED設置場所	藤崎幼稚園	藤崎4丁目12番1号

9. 消防・警察・医療機関

種類	施設名
消防署・出張所	なし
【消防団】	第4分団詰所
	第6分団詰所
警察・交番	藤崎交番
病院・診療所	さくらライフ津田沼クリニック
	いばた眼科クリニック
	津田沼駅前クリニック
	津田沼こどもクリニック
	津田沼医院
	ふじさき内科クリニック
	真希レディースクリニック
	よしごえクリニック内科・胃腸科

10. 自主防災組織

組織数	加入世帯数
19	3,169

11. その他防災施設

種類	地区内	習志野市全域
防災行政無線 (スピーカー)	3 箇所	49 箇所
ヘリポート 臨時離発着場	0 箇所	13 箇所
消防水利	132 箇所	2,191 箇所

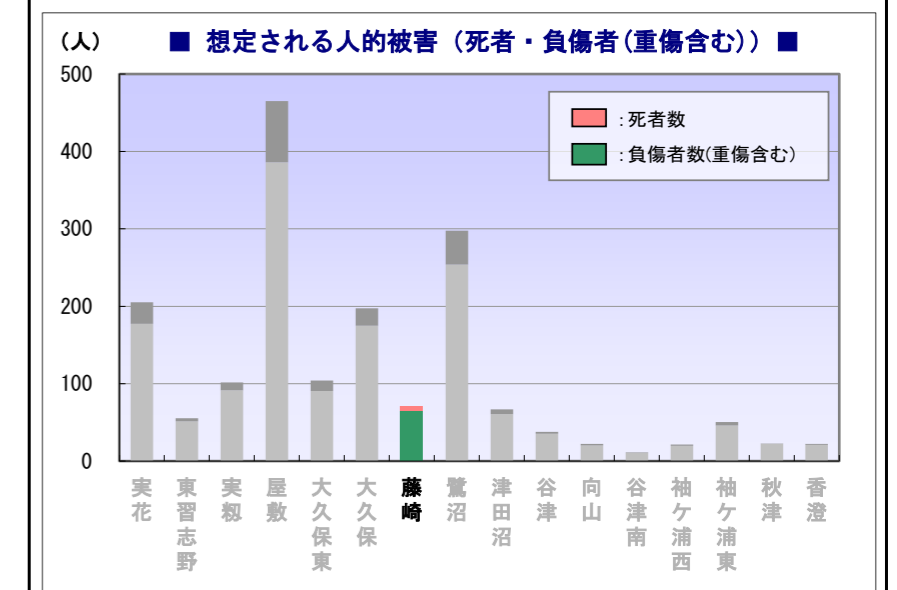
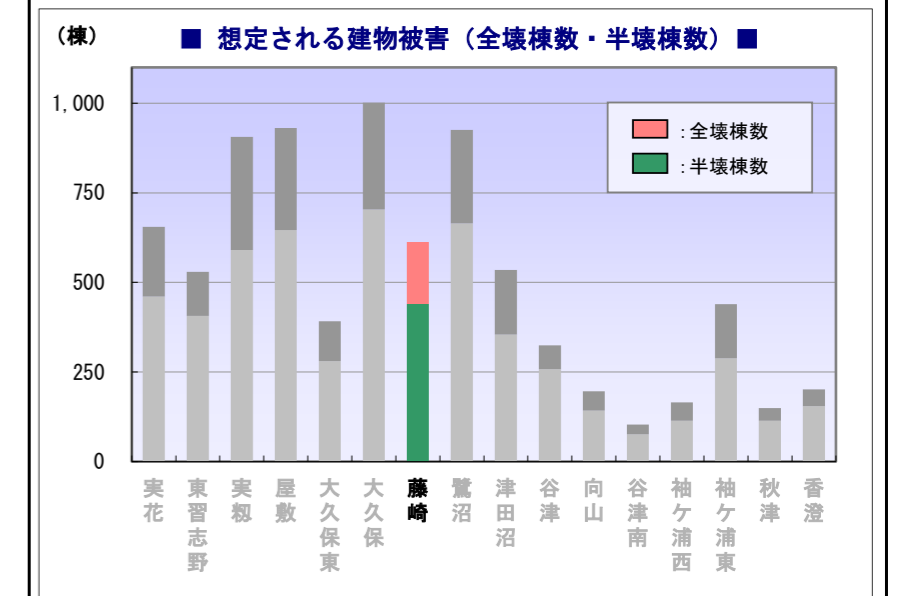
12. 土砂災害

種類	地区内	習志野市全域
土砂災害特別警戒区域 (急傾斜地の崩壊)	7 箇所	34 箇所
土砂災害警戒区域 (急傾斜地の崩壊)	7 箇所	36 箇所
急傾斜地崩壊 危険区域	1 箇所	5 箇所

13. 各種災害被害想定結果

被害想定項目	被害数値 (当該地区)	被害数値 (市全域)
建物被害【全壊】(棟)	172棟	2,371棟
建物被害【半壊】(棟)	441棟	5,697棟
建物全半壊率(%)	19.1%	21.7%
火災被害【焼失棟数】(棟)	0棟	2,756棟
死者(人)	6人	226人
負傷者【重傷含む】(人)	65人	1,527人
避難所生活者数(人)	2,754人	28,628人
河川はん濫影響建物棟数(棟)	0棟	5,532棟
内水はん濫影響建物棟数(棟)	576棟	6,975棟

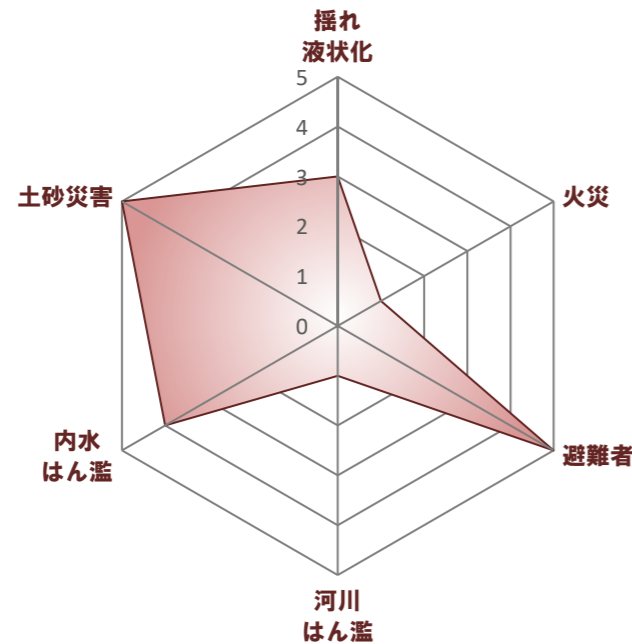
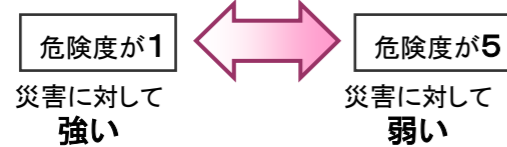
※ 地震被害の想定地震は、「千葉県北西部直下地震(M7.3)」です。



14. 各種災害の評価

評価項目		数値	危険度
地震災害	揺れ・液状化	揺れ・液状化による建物全半壊率(%) ※全半壊棟数/地区内の建物の総数	19.1%
	火災	火災・延焼による焼失率(%) ※焼失棟数/地区内の建物の総数	0.0%
	避難者	避難人口率(%) ※避難所生活者数/地区の総人口	20.5%
風水害	河川はん濫	浸水する可能性がある建物棟数(棟)	0棟
	内水はん濫	浸水する可能性がある建物棟数(棟)	576棟
	土砂災害	土砂災害の影響を受ける可能性がある建物棟数(棟)	149棟

＜地区の災害に対する強さ＞



＜表・グラフの見方＞

被害想定調査の主要な結果に基づいて、各項目ごとに地区の災害特性を5段階の危険度で表したものです。「5」が最も災害の危険度が高いことを表しています。したがって、グラフの六角形の面積が広いほど、地域が総合的に「災害に弱い」ことを示しています。

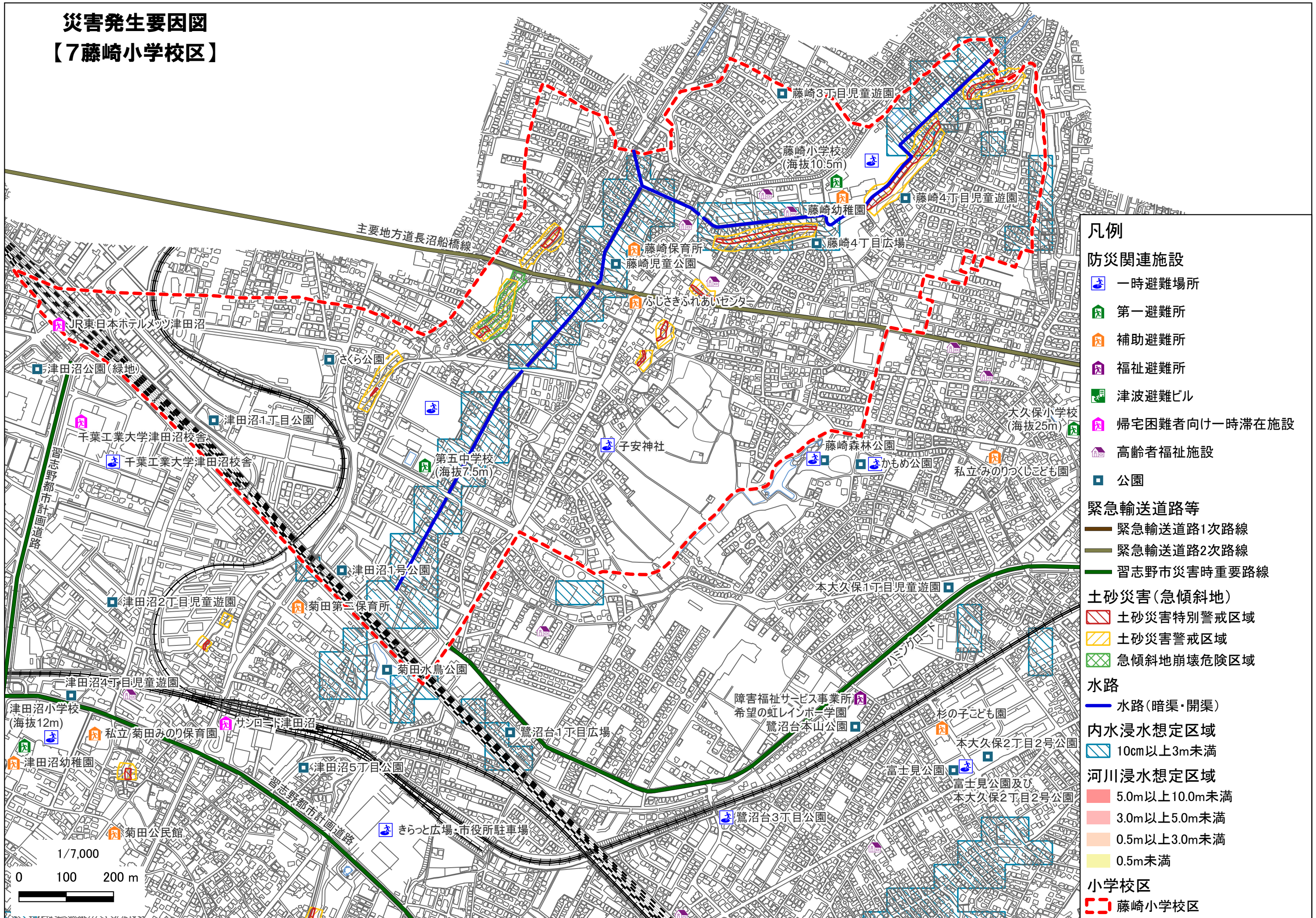
15. 地区の災害特性

問題点	内容
地震災害	<input type="checkbox"/> 揺れ・液状化による被害 千葉県北西部直下地震（M7.3）が発生した場合、地区の揺れは震度6弱から震度6強と予測される。予測される建物全半壊率は19.1%であるが、津田沼3丁目ではやや高い想定となっている。
	<input type="checkbox"/> 火災による被害 地震火災による焼失は予測されておらず、焼失率は0%である。しかし地区北東部は木造建物の割合が大きく、建物が密集しているため、延焼が懸念される。
	<input type="checkbox"/> 避難環境 地区内の人口の20.5%にあたる2,754人の避難所生活者が発生すると予測される。また船橋市と隣接しており、災害時には本地区の避難施設に市域を越えて避難してくることが予想され、避難所等の対応に支障をきたす可能性がある。
風水害 土砂災害	<input type="checkbox"/> 河川はん濫 当該地区においては河川はん濫の想定はないため、河川はん濫に対する危険性は低い地区である。
	<input type="checkbox"/> 内水はん濫 内水はん濫によって浸水する可能性がある建物棟数は576棟と予測される。浸水想定区域は、第五中学校、藤崎保育所、藤崎小学校をつなぐ水路周辺に集中しており、想定される浸水深は10cm～20cm程度である。
	<input type="checkbox"/> 土砂災害 土砂災害特別警戒区域が7箇所、土砂災害警戒区域が7箇所、急傾斜地崩壊危険区域が1箇所指定されており、計149戸において土砂災害の影響を受ける危険性がある。がけ地周辺の住家は大雨・長雨時のがけ崩れに対して警戒が必要である。
避難環境	<input type="checkbox"/> 一時避難場所 一時避難場所として、藤崎小学校と第五中学校、子安神社が指定されている。
防災施設関係	<input type="checkbox"/> 第一避難所 第一避難所として、藤崎小学校と第五中学校が指定されている。
	<input type="checkbox"/> 補助避難所 補助避難所として、藤崎保育所、藤崎幼稚園、ふじさきふれあいセンターが指定されている。
	<input type="checkbox"/> 福祉避難所 地区内に福祉避難所に指定されている施設はない。
その他	<input type="checkbox"/> 防災倉庫 地区内には防災倉庫が藤崎小学校と第五中学校に設置されている。
	<input type="checkbox"/> 非常用給水施設 当該地区に非常用給水施設は設置されていない。
その他	地区内の避難所周辺に急傾斜地が存在しており、避難に支障をきたすおそれがある。

16. 防災対策の方向性

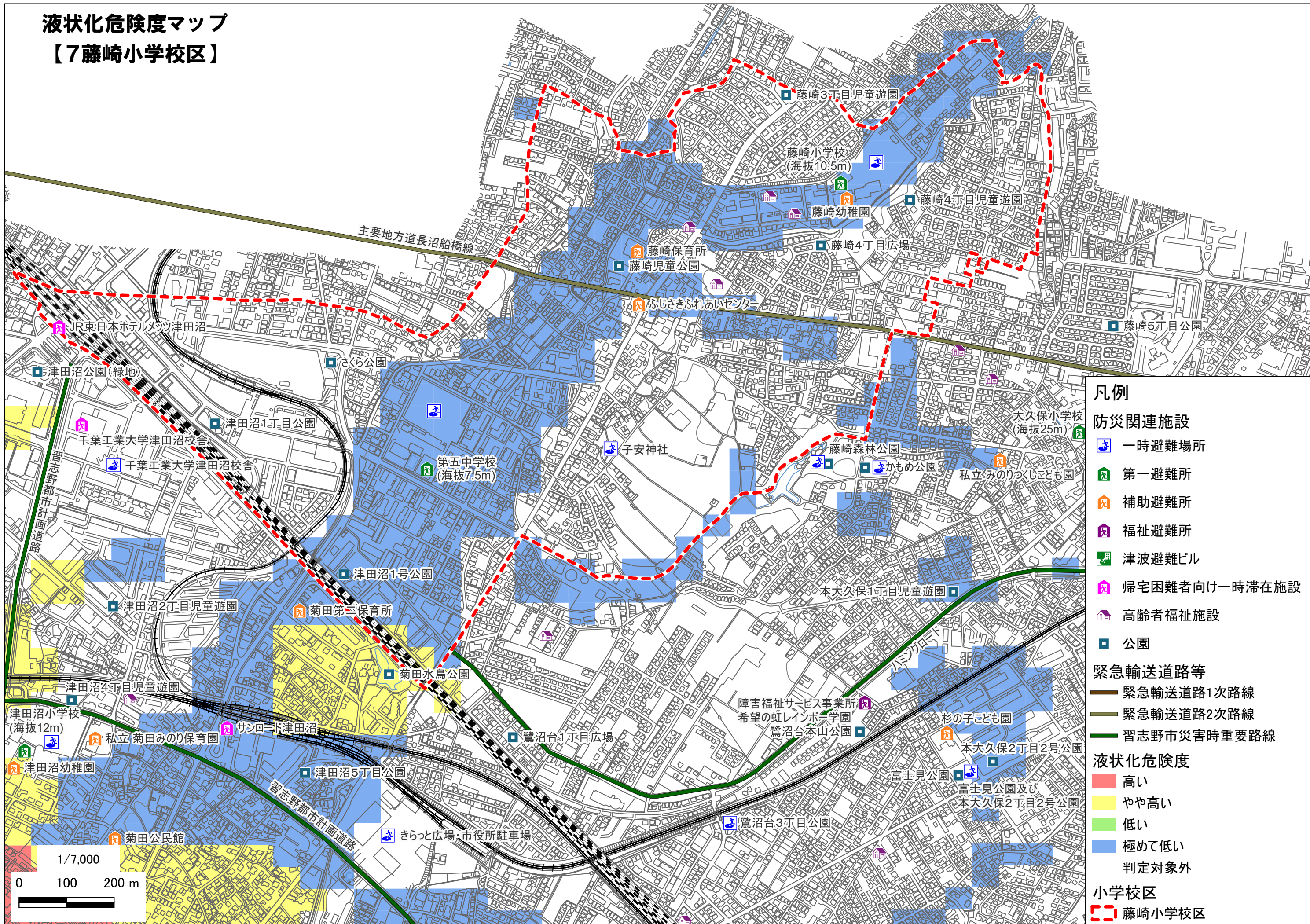
防災対策の方向性	
既存建築物の耐震性の確保	<b>■家屋の安全対策実施の促進</b> 昭和55年以前の建築物の耐震診断・耐震補強等を促進する施策を積極的に実施する。特に、不特定多数の人が利用する施設、学校、行政関連施設等の応急対策上重要な施設、要配慮者利用施設、病院施設等について、耐震性の確保に配慮する。 また、耐震診断と耐震改修工事等に関する補助金制度や、簡易耐震診断、家具の固定等の安全対策について、住民に周知・啓発する。
液状化対策の推進	<b>■ライフライン施設の強化</b> 地盤の改良や施設の耐震化・液状化対策により、地震・液状化に強いライフラインづくりを推進する。 <b>■応急対応体制の整備</b> ライフライン被害に対し、迅速に応急復旧に取りかかれるよう体制を整備する。市民生活を保持できるよう、トイレや飲料水等の応急対策について強化・推進する。 <b>■住民への知識普及・啓発</b> 液状化に関する正しい情報を呼びかけ、住民の防災意識を高揚する。
火災・延焼防止対策の推進	<b>■初期消火についての周知徹底</b> 家庭での初期消火の徹底を図るため、消火器具の設置を促進する。また、住民や地域に対して初期消火に関する知識、技術の普及を図るため、防災訓練を積極的に実施する。 <b>■危険物施設の安全確保</b> 消防法に定められた危険物取扱施設（貯蔵所・取扱所）の耐震性を確保する。 <b>■防災空間の整備</b> 延焼拡大を未然に防ぐため、建築物の不燃化を図る。また、火災の延焼防止や一時的な避難場所として重要な役割を担う緑地・都市公園を計画的に整備する。
避難拠点の整備	<b>■避難所・避難場所の確保</b> 災害時における要配慮者や女性の避難生活に配慮し、避難所等への計画的な備蓄や必要な物品の確保など、避難所の生活環境対策を推進する。
避難体制の整備	<b>■帰宅困難者対策</b> JR津田沼駅及び新京成新津田沼駅周辺では多数の帰宅困難者の発生が予測されるため、防災関係機関や駅周辺の民間事業者等と連携し、情報提供等の必要な支援や一時的に滞在する施設への誘導等を行う。 <b>■防災・減災意識の高揚</b> り災者を抑制するために住宅の耐震化が重要であることを住民に教育・啓発し、防災・減災意識の高揚を図る。 また、ライフラインの途絶等に備え、家庭での水・食料や簡易トイレ等の備蓄を促進する。
河川はん濫・内水はん濫対策の推進	<b>■住民への知識普及・啓発</b> 河川はん濫・内水はん濫の危険性を事前に把握できるよう、ハザードマップ等を活用した知識の普及・啓発を図る。 <b>■気象情報等の発信体制の強化</b> 大雨等の気象情報、避難情報や警戒レベル等を、状況に応じて有効な伝達方法で、迅速かつ的確に発信できるよう体制を検討する。
土砂災害に対する警戒・避難体制の整備	<b>■住民への知識普及・啓発</b> 土砂災害が発生する危険性がある地域住民に対し、土砂災害の危険性を認識し、早めの自主避難が行えるよう知識の普及・啓発を図る。 <b>■土砂災害に対する警戒・早期避難体制の整備</b> 降雨時の気象情報等を把握し、早期の警戒活動や避難情報を判断する体制を整備する。
その他	<b>■自主防災組織活動の促進</b> 防災活動を行うに当たり、住民が地域ごとに団結し、組織的に行動することによってその効果が最大限に発揮できることから、自主防災組織活動を促進する。

# 災害発生要因図 【7藤崎小学校区】



# 液状化危険度マップ

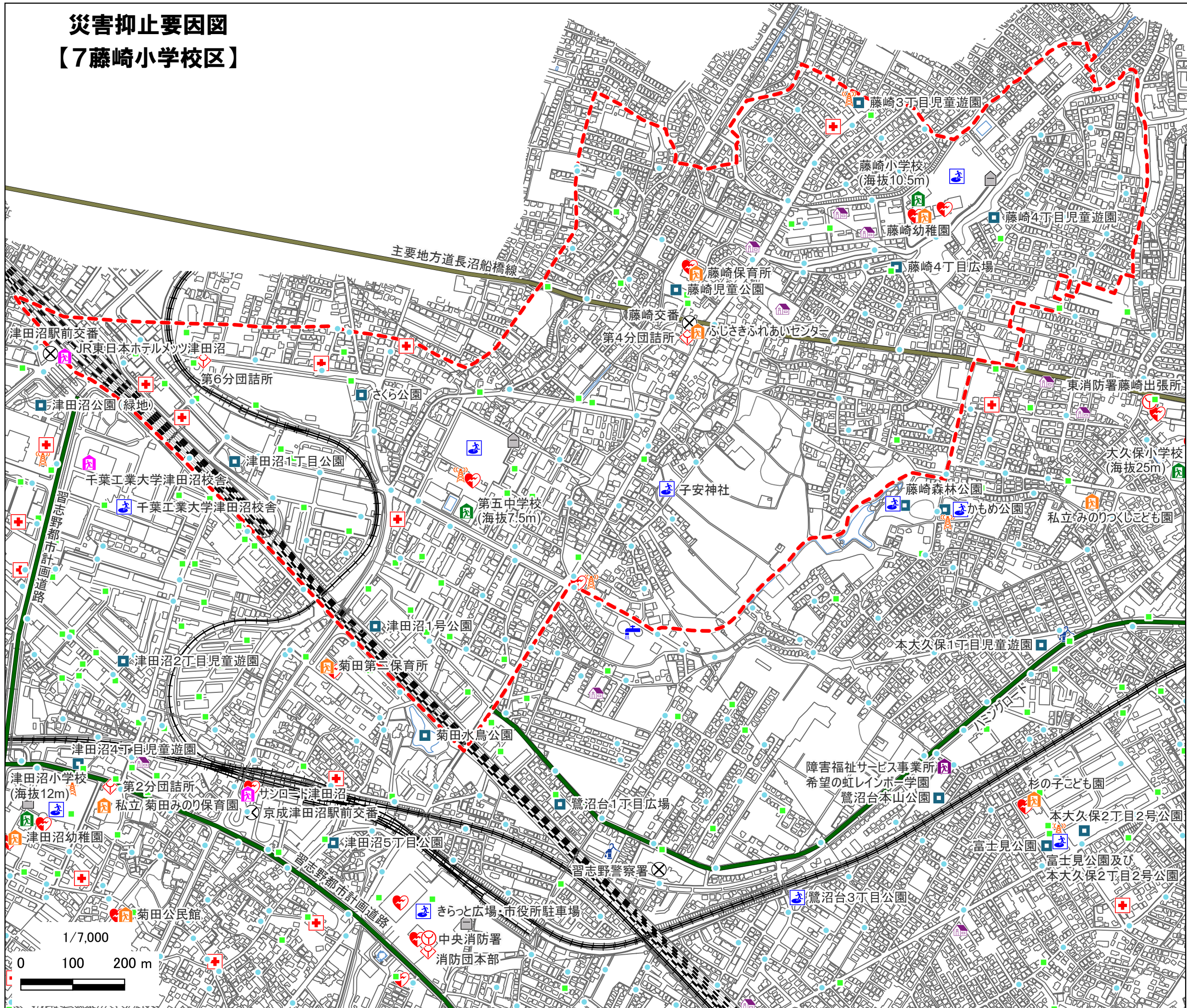
## 【7藤崎小学校区】



- 凡例**
- 防災関連施設**
- 一時避難場所
  - 第一避難所
  - 補助避難所
  - 福祉避難所
  - 津波避難ビル
  - 帰宅困難者向け一時滞在施設
  - 高齢者福祉施設
  - 公園
- 緊急輸送道路等**
- 緊急輸送道路1次路線
  - 緊急輸送道路2次路線
  - 習志野市災害時重要路線
- 液状化危険度**
- 高い
  - やや高い
  - 低い
  - 極めて低い
  - 判定対象外
- 小学校区**
- 藤崎小学校区

# 災害抑止要因図

## 【7藤崎小学校区】



### 凡例

#### 防災関連施設

- 一時避難場所
- 第一避難所
- 補助避難所
- 福祉避難所
- 津波避難ビル
- 帰宅困難者向け一時滞在施設
- 高齢者福祉施設
- 公園
- 防災倉庫
- 消防署・消防出張所
- 消防団詰所
- 警察署・交番
- 非常用給水施設
- 非常用給水施設(生活用水(飲料水不可))
- 防災行政無線
- ヘリポート臨時離発着場

#### 消防水利

- 消火栓
- 防火水槽
- その他(プール・池)

#### 緊急輸送道路等

- 緊急輸送道路1次路線
- 緊急輸送道路2次路線
- 習志野市災害時重要路線

#### 小学校区

- 藤崎小学校区